

原子力発電所特別委員会会議録

柏崎市議会

1 招集 昭和45年11月2日午前10時

1 場所 第1委員会室

1 出席委員

委員長 柴野寅平君

副委員長 飯塚 正君

田村光仲君 渡辺政太郎君

矢代彦作君 服部喜三郎君

小谷正太郎君 山崎三司君

葉賀清治君 関 市太郎君

関矢尚三君 内藤哲夫君

石黒武久君 与口登美夫君

阿部公一君 吉田勝治君

黒崎秀夫君 浅野重栄門君

渡辺 勉君 本間正平君

以上20人

1 欠席委員

村田実義君 坂井友治君

中村徳雄君 川又信応君

以上4人

1 欠席 1人

1 説明員 助役 今井哲夫君

1 特別出席 議長 武田英三君

東電事務所事務課長 津賀輝雄君

1 事務局職員 主事 小越哲雄君

1 事件 今後の対策について

1 署名委員 小谷正太郎君 山崎三司君

1 開議 午前10時15分

1 会議概要

柴野委員長 原発の用地買収について市長等があっせんしに乗り出した。近く、まとめる見通しが強くなった。用地の問題が解決すれば、事態は一段と進むことになる。

今後に備えて過般、3分科会もそれぞれ会議を開いて協議した。3分科会の協議の結果を報告してもらい、それに基いて全体委員会としての進み方について協議してもらいたいと思っている。まず監視体制のほうから報告してもらいたい。

関 矢 委 員 監視体制分科会の協議の結果を報告する。10月26日に分科会を開いた。一番大事なことは安全性の確保ということであり、これについていろいろ協議した。大体、原子力発電というものについての認識が一般に浅い。それとともに、誤った認識を持っている向きがある。高校の先生の中にもそういう人がいる。生徒にも誤ったものを教えている。そういうものに対して手を打たなければならないという話が出た。それから、原子力の平和利用ということについてもPRしてゆく必要があるという意見も出た。要するに、広報活動にもっと力を入れる必要があり、市長にもそのことを申し入れようではないかという話になった。東電にも申し入れようという話になった。

それから、県の態度や考え方を近日中に聞きに行こうということになった。大体、そんなところが分科会の概要である。

柴野委員長 次に環境整備の分科会の報告を願いたい。

関 委 員 30日に分科会を開いて協議した。焦点は寺泊線のつけかえの問題にしばられた。寺泊線のつけかえを含む道路整備の全体計画について当局の方針を聞くため市長の出席を求めたが、不在のため、助役から出てもらって話を聞いた。助役の説明は、土地利用の総合計画を検討中だが、まだ発表の段階ではないということであった。

今後の方針としては、出県して県の考え方をただして来たいということになった。

柴野委員長 次に、産業振興分科会のほうから。

吉 田 委 員 30日に分科会を開いた。温排水の活用にしても、観光開発その他についても、すべてまだ研究中のものであり、今後とも調査研究を続けてゆきたいということであった。

柴野委員長 まず監視体制分科会の報告について質疑、意見ないか。

関 委 員 関係地域に対する当局の説明が足りないように思う。市長は宮川には東電と一っしょに1回来ただけである。それも時間が十分ではなかった。放射能の不安というものについて、地域民に対する説得、解明がなされていないことは残念である。地元の特別委員会の丸谷委員長が市長や公室長に来てくれといっても、なかなか来てくれない。

柴野委員長 PRが不足ではないか、市長はどう考えているのか、もっと積極的にやるように申し入れようという意見が分科会から出ている。ここらに関委員の意見に応ずるのではないかと思う。

本間委員 市長に申し入れすることには賛成である。先日の講演会などは、一部の妨害がひどいものだった。ああいう事態の起きないようにやってもらわなければならない。

葉賀委員 向こうがケンカを売ってきても買わないように、その辺は調和をとってやってほしいと思う。

与口委員 芳川議員のあたりは盛んに議員としての見解を述べている。私も機会あるごとに説明してきたつもりである。特に関係地区の議員としては、それなりに動くことが必要と思う。

関委員 私も自分なりの立場から、機会を見つけて説明に当たってきたつもりである。公民館などに一般大衆を集めて、政治運動のような形ではやっていないが。

柴野委員長 これまでに、いろいろ会合が持たれている。ところが、時によって反対の人ばかり集まり、時によって賛成の人ばかり集まる。ここに1つの問題があると思う。両方集まっての話し合いということが、なかなか望めない。

武田議長 向こうは政治的な動きもあるように感じられる。向こうのペースに巻き込まれないようにやっていかなければならない。市長だけでなく、議会もバックアップしていかなければならない。1人でダメなら、同志を糾合して行けばいい。

本間委員 宮川等には足しげく行ったほうがいい。

内藤委員 この特別委員会は当局のやることに協力するということで発足した。そういうことを考えると、われわれ自身としても、もっと積極的にPRに乗り出してゆく必要があると思う。私は自分の地区等において一生懸命にやっているつもりである。

飯塚委員 私も地区においては、それなりにやっているつもりである。私が説明に当たったり、時には市長から来てもらったりしている。

ただ、関議員が言っているのは、ほかとは違う事情にある地域だけに、行政の立場からもっと乗り出してきてもらいたい、ということだと思う。

柴野委員長 議会としては、地元議員が主催する会合等には努めて出席してバックアップする。行政の立場からも積極的にやってもらおう。こういうことを考えていったらどうか。

関矢委員 地元のことを考えれば、当然、不安はつきものだと思う。環境の面において

も、総合的な計画ができていない。われわれも協力体制で進んでいるけれども、われわれ以上に当局のほうに積極性が要求されると思う。

与口委員 先ほど内藤委員が、議会もいっしょになってPRの必要があると言われたが、その意見にはちょっと賛成しかねる。市長と議会は、おのずから性格が違う、議会は議会なりの進み方がある。

柴野委員長 私も議会には議会の立場があると思う。必ずしも市長と一心同体になってやってゆくということではないと思う。

飯塚委員 私たちも、それなりにやりますよ、ということだと思ふ。

柴野委員長 行政の立場からは当然一生懸命にやってもらわなければならない。われわれのほうは、われわれのほうとしてやる、ということだと思ふ。

本間委員 私自身は原子力のことについて説明しろと言われても、できない。また、気象とか海象等について調査をしているが、それがどういうふうになっているのかということも、わからない。そういう調査のことについて一度、説明を聞きたいと思っている。

柴野委員長 それでは今度は環境整備のことについて質疑意見ないか。

与口委員 地域の航空写真をとるという話を聞いていたが、それはどうなっているか。

柴野委員長 航空写真は撮り終わったわけである。それによって6%の歩伸びというものが出てきたわけである。

与口委員 面積のことでなく、それによって、いわゆるレイアウトを考えるという話であった。

柴野委員長 まだ土地買収がきまっていないので、レイアウトの段階まではいっていないと思う。

関委員 航空写真をもとにして総合計画を考えたいという話が確かにあった。それで、このあいだの分科会で当局から来てもらって説明を聞いたが、そういう計画はまだできていないということであった。

そこで、地元の宮川地区としては、いま出ているのが県道のつけかえという話だけなので、納得できない者が多くいるわけである。どうして高浜だけが損害を受けなければならないのかという話になっているのである。

葉賀委員 そういう状況に対して、どういうふうやっていったらいいかということを考えなければならない。

柴野委員長 今までの意見をまとめてみると、道路の全体計画及び土地利用の総合計画を速やかに立案すべきでないか。あわせて、地元の要望をどのように取りまとめて、これに対処してゆくか。この辺を市長に意見具申したり、考えをただ

してみたらどうか。

服部委員 こうあるべきだということを図面でも添えて要求したらどうか。

柴野委員長 当局は地元から要望が出るのを待っていると言う。それでは困るではないか。こっちから積極的に案を示すべきだということを以前から申し入れている。

渡辺(政)委員 実際問題として、道路をどうするということがきまらなければ、高浜の人たちは納得しないと思う。実害をこうむるのだから。それで、例えば、バス代がこれによってふえるとすると、それに対して、どういう手だてを講じてやるかということも考えてやる必要がある。

柴野委員長 「地元の要望の取りまとめと対処についてどのように考えているか」という質問の形で市長に申し入れてはどうかと思う。

渡辺(政)委員 住民のほうから要望を出してもらいたいと言っても、むずかしい。やはり当局のほうから、これでどうだという案を示すべきだと思う。

与口委員 要するに、環境の問題が当面の問題の中では中心になると思う。市長は、原発ができれば柏崎は新潟県の柏崎でなくて日本の柏崎になるとか、いろいろ抽象的な漠然としたことを言っている。そんな抽象的なことよりも、現実には、50円のバス代がどうなるのかということが問題なのだ。市長から具体的なものを出してもらうことが必要なのだ。

飯塚委員 バス路線については、必ずしも距離が遠くなるから不便になるということとは言えない。上条線は柏崎に着くのが2キロ以上遠くなったが、理研や常盤等に通う者は、かえって便利になって喜んでいる。2キロ以上遠くなったが、料金は同じなのである。だから、料金というのは、ささいな問題なのである。要は、原発を取り巻く環境がどうなるのかというアウトラインが示されないうちは、論じてみようがないということなのである。

柴野委員長 道路の全体計画、土地利用の総合計画を速やかに立案すべきであるということ。できれば、議会に対して具体的な資料を提出してほしいということ。あわせて、地元の要望をどういうふうに取りまとめて、これに対処するかということ。ここらあたりを市長に申し入れ、意見具申をしていきたいと思う。  
次に産業振興の関係について質疑、意見ないか。

飯塚委員 先日、県の課長連中が来て市当局といろいろ懇談したそうだが、われわれとしても、そういう懇談の機会を作ってもらいたいと思う。

葉賀委員 そういう懇談の席には議会側も呼んでもらうようにしなければ困ると思う。

飯塚委員 温排水の問題については相当にデータもあって実用化の方向で研究されているそうだ。関係機関と懇談することは有益だと思う。

柴野委員長 県の関係者が来柏して懇談会を開く場合には分科会のほうにも呼びかけてほしいということを申し入れる、これでよろしいか。その例として温排水グループの問題をあげる。

内藤委員 その懇談会には私は出た。川瀬教授と10年来の友達なので出させてもらった。あの席の話は、実際の利用という段階にはほど遠い夢のような話であった。極端なことを言うと、電気で米山の頂上まで水をあげて滝を作ったら観光に非常に役立つというような話であった。

柴野委員長 原子力そのものについては、われわれは深い知識は持っていないが、そういう地域開発に結びつくような話については、われわれもそれなりに参画したいということである。

与口委員 原子力発電所の熱効率は30%くらいである。これでは損失が非常に大きい。柏崎市のように800万キロワットというような大きな規模のものになると、その損失は国家的なものになる。せっかくの熱エネルギーを何とか有効に利用しなければならない。温排水の利用などはその中心的なものになるだろう。これについて権威者を集めた研究センターが作られるというような話も耳にしている。そういう研究機関を誘致するよう動くことも大事でないかと思う。

浅野委員 東電がいろいろな調査をやっているが、具体的にはどういうことをやっているのか、一度聞きたいと思っている。

本間委員 私もそう思う。こういう会合には東電とか市当局からも出てもらって話し合いをしたほうが良いと思う。

柴野委員長 このあとで市当局や東電からも来てもらうが、いままでの話を整理してみると、①広報関係の活動に全力をあげ、広く一般市民を対象にしてPRを行なうべきである。②議会としては地元議員の主催する会合には、つとめて出席してバックアップする。③道路の全体計画及び土地利用総合計画を速やかに立案すべきである。あわせて地元の要望に対する取りまとめと対処の考え方を当局から聞きたい。④県、国あたりの係官が来柏して懇談会等を開く場合には、分科会も出席する必要がある。⑤海象、気象等の調査はどうなっているのか。大体、こんなところだと思う。

1 休憩 午前11時50分

1 再開 午後0時25分

(今井助役、東電津賀課長出席)

今井助役 目下、用地買収問題に全力を集中しているという段階である。用地問題が解決しなければ、いかにPRしても、どんな調査をしても、全部ダメになってしまう。用地問題は明るい見通しになっており、近日中に手打ちができるのではないかと期待している。

次に、いろいろの調査ということであるが、1つには新潟大学の放射能研究グループが環境放射能の調査をしている。小山、川瀬、小林、滝沢の先生方のグループである。文部省の助成を得て、学術研究調査としてやっている。海水、土壌、大気、雨水等について調べている。文部省にレポートを提出するわけである。

それから、県の水産試験所でやっている。漁業影響についての調査等を行っている。市としては、ここに原発が設置された場合、柏崎地域全般にどういふ影響があるだろうか、これを有利に活用してゆくためには、どういふ対策が必要だろうか、ということをお北陸開発コンサルタントと話し合っているわけである。これもまだ作業の中間である。これは原子力発電所周辺の用地をどのように使うかという問題ではなくて、国道との関連、高速道路との関連、他地域との関連など、都市計画的な面であって、原子力発電所の周辺そのもののデッサンということではないか、東京電力の諸計画がもう少し具体的に浮かび上がってこないか、これもハッキリした構想は立てられない。

それから、県には原子力発電所関係の技術会議というものができている。技術的な面で県当局に助言したりすることになっている。

それからPRということであるが、これまでに数百人の市民から敦賀等を視察してきてもらっている。部落の説明会にも出向いている。公開討論会の申し出には、効果がないと判断して、応じていない。高校の先生方からの公開質問状に対しては、それに答える趣旨を盛り込んだパンフレットを作った。

地区からの要望については、まだ、まとまったものとしては出ていないけれども、荒浜本村や大湊あたりからは一部聞かされているものもある。それらをミックスしながら当局の考え方を固めてまいりたいと考えている。

与口委員 安全性の問題とは離れて、地域が不利益になるからということで反対している向きがある。そういうものに対しては、納得できるものを示すべきである。

今井助役 例えば道路にしても、地域の中でさえ利害が異なってくる。東電の計画、コンサルタントの構図、地域の要望、こういうものがある程度出そろわないと、こうします、ああします、ということは軽々には言えないのである。

内藤委員 原子力というものが日常生活にどんなに利用されているか、というようなP

Rも必要ではないか。

今井助役 原子力の恩恵というようなPRは、そんなに説得力を持つものではないという印象を私どもは持っている。

与口委員 地元の不利益をどういう点でカバーするのか、そういうものが示されなかったら、地元は踏み切れないと思う。

今井助役 当局が1つの案を出すには、それについての基礎固めが必要である。

与口委員 例えば、当局は現道はダメだ、トンネルはダメだということを言っている。

今井助役 それで、こういうふうに戻さなければならないということを申し上げている。さらに116号線に抜きたい、あるいは橋場へ抜きたいということが出る。そこらはまだ煮つまっていないのである。そのほか大湊から刈羽に抜ける道路、あるいは、う回道路から北日本製菓に向かって1本道路がほしい。いろいろのことが話題にのぼっているわけである。煮つまっていない段階で、ああします、こうしますと言っているのは、最後に行って收拾がつかなくなってしまう。

柴野委員長 県の係官との懇談会等には議会側からも出席することが有益と思う。

今井助役 先日の話し合いは、非公式な全く責任のない出放題な話し合いだった。

関委員 地元の要望という話になると、宮川としては現道をそのままにしておいてもらいたいということしか出ていない。

今井助役 あくまで、まっすぐのままにしておけということになると、それで話は終わりである。原発をやめろということと同じである。それで、う回のマイナスはあるけれども、接続道路等でプラスになる方策を講じてゆくということになるわけである。

柴野委員長 宮川は地区として要望をまとめることはむずかしいと思う。だから、こっちから案を示すことを考えてはどうかということである。

今井助役 私どももタイミングを見ながら煮つめをはかってまいりますが、特別委員会のほうからもヒントをいただきたいと思っている。

柴野委員長 東電のほうから事前調査の状況等について説明してもらうことにする。

津賀課長 海象調査を7月1日から始めている。その内容は、深淺測量、浮遊砂測定、海流調査、水温調査、波向、波高、拡散調査、表層流、底層流等を測っている。

それから、気象調査をこれからやる。風速、風向、雨雪の量などを調査する。近々、これらの測定のための鉄塔を建てる。

それから、地質調査をやった。弾性波試験もこれからやってゆく。

その他の調査としては、原山山の調査、進入路の調査等をやらなければならない。

次に用地買収の問題であるが、市長さん等のご努力によって、近々、解決するのではないかと考えている。青山農場については別に話し合うことになる。

与口委員 どこかの外国で、原発ができてから幼児の死亡率が高くなったということをNHKが報道した。

津賀課長 医学的な解明があったものではない、あのよう報道したことは、NHKとしては軽々ではなかったかというふうに感じている。

服部委員 道路等で地域が不便になることについて、どのように考えているか。

津賀課長 心苦しく思っている。迷惑はできるだけ少なくすること、そして迷惑の代償についても十分考えていきたい。

柴野委員長 ほかになれば、これで閉会する。

#### 1 散会 午後1時45分

委員会条例第23条の規定によりここに署名する。

原子力発電所特別委員会

委員長 柴野寅平

署名委員 小谷正太郎

署名委員 山崎三司